

三重外湾地域プロジェクト中型まき網漁船建造計画書

1 目的

三重外湾海域で操業を行う中型まき網漁業において、網船の小型化、新たな操業方式、漁獲物の高鮮度管理等の導入を図る改革型漁船を建造し、永続的な漁業経営を推進する。

(別添 改革計画の基本コンセプト参照)

2 船体要目は以下のとおり

- ・漁船種類 中型まき網漁船
- ・計画総トン数 34トン (FRP)
- ・計画航海速力 12ノット
- ・最大航海日数 1日
- ・主推進装置 956kW
- ・発電機 AC220V×100KVA×4P
- ・最大搭載人員 13人
- ・魚艙容積 6m³ (ステンレス張り)
- ・網台面積 56.25m²

3 主要漁労機器等は以下のとおり

- ・サイドローラー 220φ 4点駆動 起倒1台 固定3台
- ・起倒式ダビット 580kg-m 油圧ロック装置付
- ・網捌き機 1台
- ・パースウィンチ 7/3.5×45/90m 2速切替
- ・アゼ巻ウィンチ 1.5T×60m 2台
- ・魚締めウィンチ 2T×40m 2台
- ・大手巻ウィンチ 2.5T×40m シフター付 1台
- ・アバ吊ウィンチ 2T×40m 2台
- ・網揚げ機 4.5T×40m 1台
- ・その他 油圧旋回環掛 (1台)、大手縦ローラー (1台)、アバ処理機 (1式)

4 一般配置図 (別添)

三重外湾地域プロジェクト改革計画の基本コンセプト

1. 目的

三重外湾地域で操業を行う中型まき網漁業において、網船の小型化、新たな操業方式、漁獲物の高鮮度管理等の導入を図る改革型漁船を建造し、永続的な漁業経営を推進する。

2. 改革のコンセプト

(1) 生産に関する事項

① 船団のスリム化

現在6隻構成（網船1隻、灯船2隻、運搬船2隻、作業船（レッコボート）1隻）から、2隻（運搬船1隻、作業船1隻）減船し、4隻構成（網船1隻、灯船2隻、運搬船1隻）とする。

また、現行の網船（39トン）に換えて、ステンレス製の魚艙を設置した網船（34トン）を代船建造するとともに、ウォーターバッグを活用し、漁獲物の高付加価値化を実施することにより、省エネ、省コストを図り、収益性の改善に取り組む。

② 漁獲物の鮮度保持

新たに建造する網船には、紫外線殺菌装置を設置し、ステンレス魚艙を設けるとともに、高鮮度管理した漁獲物の提供を図るためにシャーベット氷を活用する。

③ ブイ投網方式の導入

現在、投網作業は網船と作業船（レッコボート）で行っているが、ブイ投網方式を導入し網船単独で投網作業を行うことにより、作業船を減船する。

④ ウォーターバッグによる活魚搬送

現在、鮮魚として水揚しているが、ウォーターバッグを活用し活魚として搬送することにより、安定供給することができるようにする。

また、鰹一本釣船の活餌（カタクチイワシ）を活魚として搬送し、蓄養することにより、地元漁業者への餌提供および他県鰹船の水揚誘致を行う。

⑤ 居住環境の改善

船員室、寝台等の空間を広くすることにより、居住環境を改善する。

(2) 流通・加工・販売に関する事項

① 漁獲物の高付加価値化

シャーベット氷の活用等により高鮮度管理した漁獲物の一部を定期的に直販する（曜日、日にちを決めた直販所の開設）ことにより収支の向上を図る。

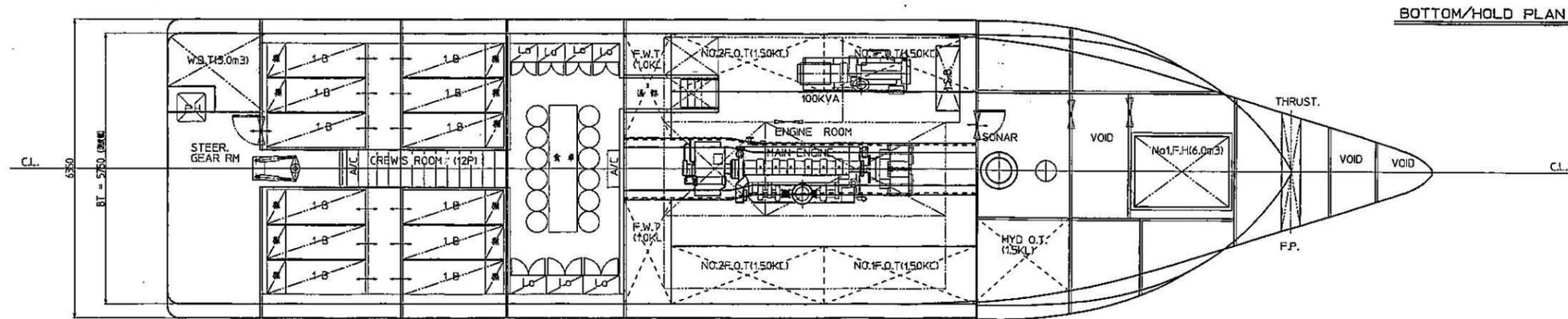
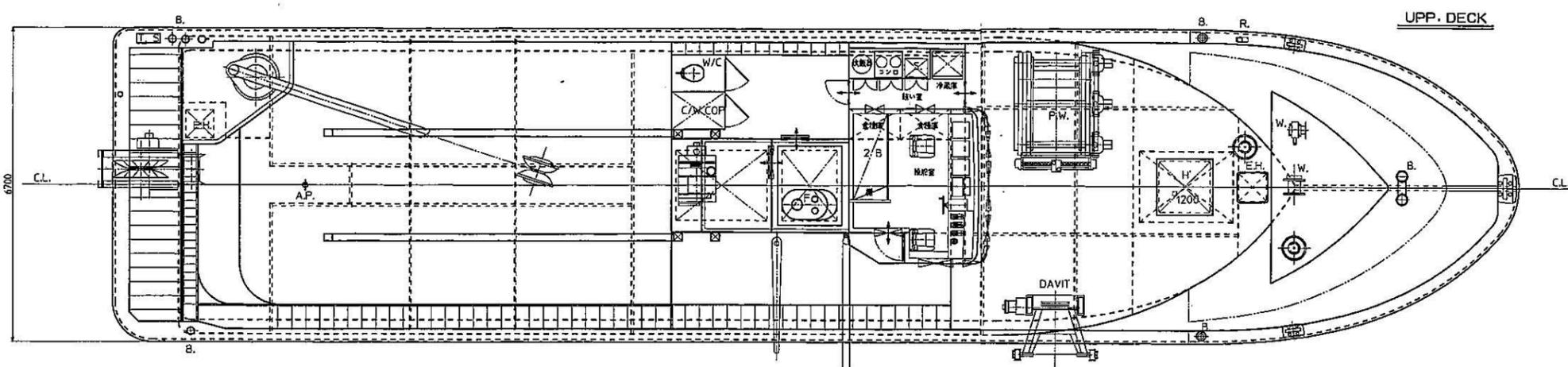
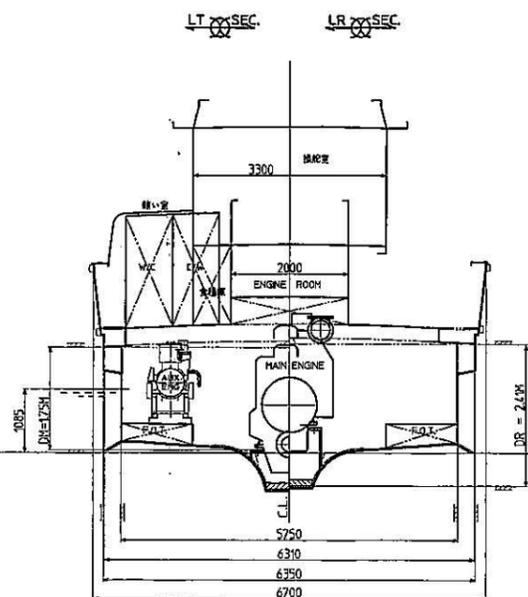
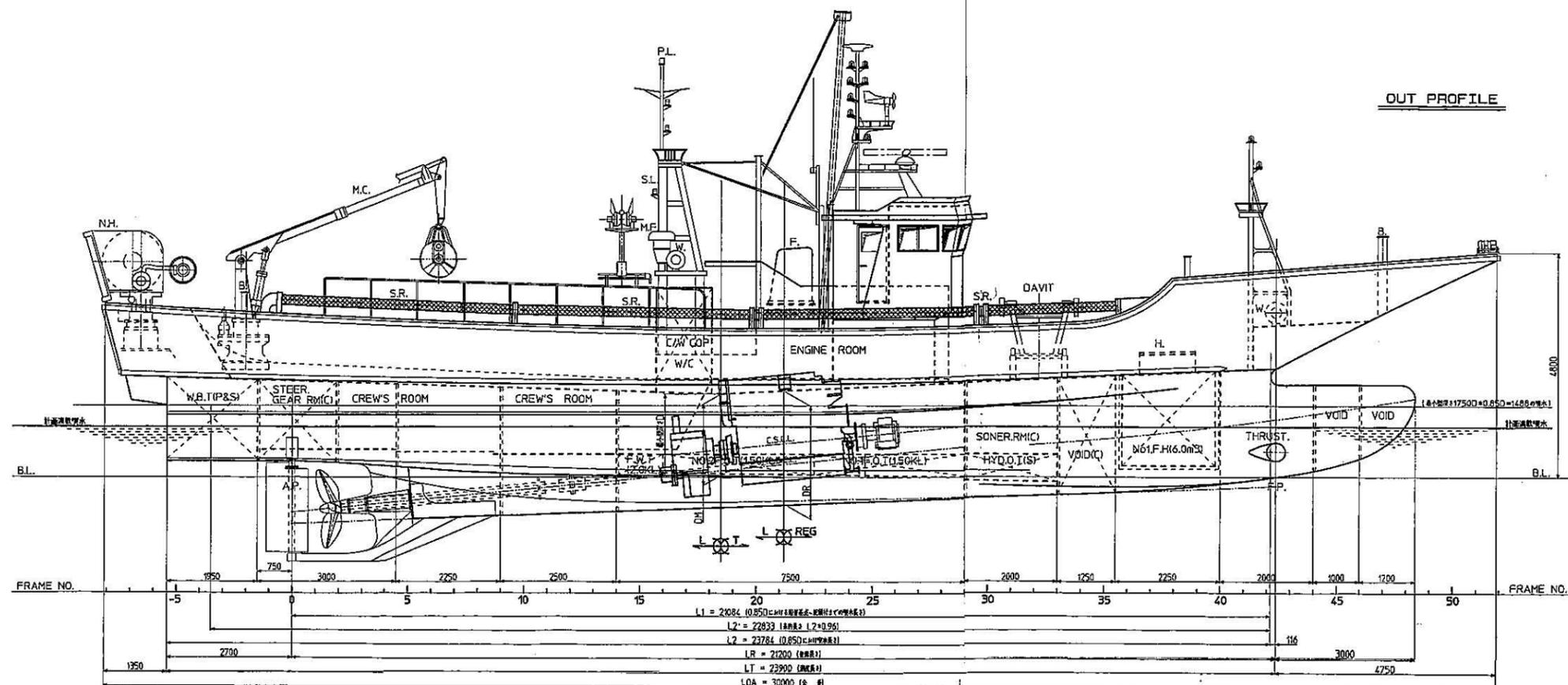
また、早朝に水揚げしていた漁獲物を、一部、夜に水揚することにより、都市輸送時に1日早く中央卸売市場に供給し、高鮮度漁獲物を提供する。

② 漁獲物の安定供給

休漁日、不漁時に漁獲物を安定供給するため、ウォーターバッグを活用して活魚を搬送し、蓄養することにより計画出荷ができるようにする。

③ 地元の鰹船との連携

当地区では、鰹一本釣漁業が営まれており、活餌（カタクチイワシ）の需要があるため、ウォーターバッグで活魚を搬送し、地区内での需要に応じるとともに他県鰹船の誘致に繋げ、地元産業の振興を図る。



主要目	
船主	三重外海漁業協同組合
船名	
船種	旋網本船
縮トン数	約34トン
主機関	956kW
乗員	13人

主要目	
全長 LOA	30.000 m
全幅 BOA	6.700 m
登録長 LR	21.200 m
登録幅 BR	6.310 m
登録深 DR	2.410 m
測度長 LT	23.900 m
測度幅 BT	5.750 m
測度深 DM	1.750 m

船番	
船主	南正徳丸
船名	
34 総噸型FRP製旋網本船	
一般配置図及び中央断面図	
尺度	1/60
承認	検図 設計 製図
日付	平成23年10月15日
図番	NF-G-C-01